

結婚してもしばらくは二人だけの生活を営み、二人とも働きながら家庭生活のルールを作りたいと思います。生活の基盤ができれば26歳過ぎに子どもを産み、産休・育休を取った後、仕事に復帰し、子育てもしたいと思いますが、難しいかもしれません。

みなさんのライフスタイルは？

**司会** 資料5の希望の優先度では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」と考えている人が多いようです。資料6の現実の優先度では、仕事を優先せざるを得ないとか、家庭生活をまず優先してしまう、といった結果になっています。みなさんはこれから働いて、家庭を持っていくうえで、どのようにしていきたいと考えていますか？

**堀内**：私は、仕事、家庭生活、地域・個人の生活、全部優先できればいいのですが、仕事がないと生活していけないので、仕事と家庭生活が大事なのですが、やはり、そこに住んでいる地域の人との関係も、必要だと思います。最近、地域の間関係が、すごく希薄になっていっていると感じています。私は昔から、朝のあいさつや会話をご近所の人たちとしていましたので、地域の人との交流は必要だと思っています。また、個人の生活についても、家族とは別に自分だけの時間を持つことも切り捨てられないので、「仕事と家庭生活

をともに優先したい」が一番多いのが意外に感じました。  
**小林**：私は最初に仕事を優先して、結婚し子どもが生まれたら、仕事と家庭生活をともに優先したいと思います。地域に関しては、どうしても仕事と家庭生活に追われてしまい余裕がないかと思えますので、子育てが終わって余裕が出てきたときに、地域とかかわりたいです。  
**黒川**：独身のときは、仕事を優先して、

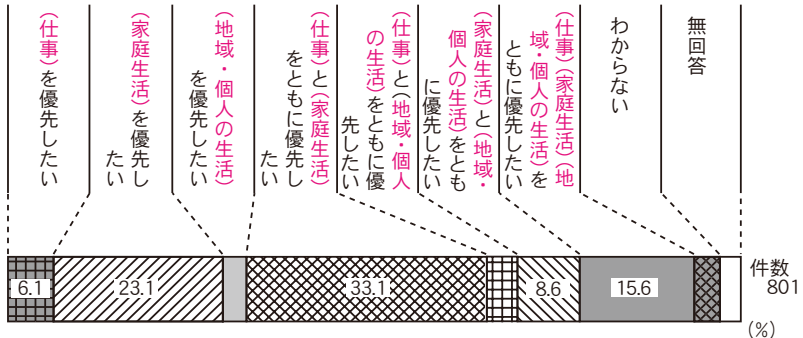
家庭を持ったら、両方とも優先したいと思います。地域社会への参加は、自分とのかかわりがあまり見えないことや、入りにくいこともあって考えたことがありません。自分が地域とかかわるようになったら優先したいと思うようになるのではないのでしょうか。  
**加藤**：私も堀内さんと同じで、仕事も家庭生活も個人も全部優先したいです。仕事は、自分のやりたいことを発揮

できる場でもありますし、家庭生活は、大切な家族に囲まれて安心できる場所です。そのような家庭生活が成り立つのも、地域の人との支えだとかがないとできないと思います。その中でも自分の時間を作って、調和が取れ、すべてが揃った生活が自分の中では幸せだと思います。

**司会** 今日、本当に長い間ありがとうございました。

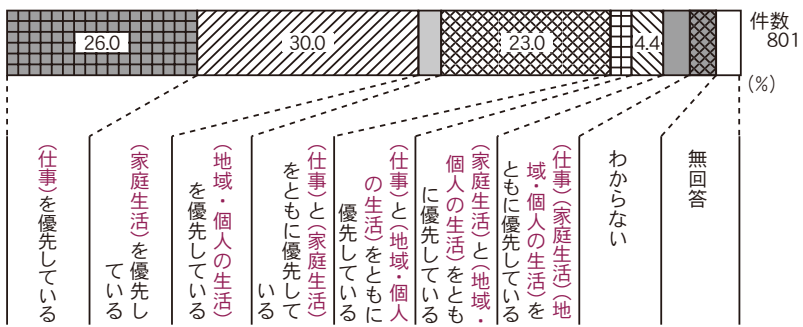
(資料5)

希望の優先度



(資料6)

現実の優先度



板橋区男女平等に関する意識・実態調査報告書(平成22年1月発行)

座談会を終えて

今どきの女子大生は、すごく真面目に将来のことを考えているのがよくわかりました。これから社会に出て働くという段階なのに、学校で学んだことを踏まえつつ、現代社会の問題点をよく理解しているようです。社会的問題となつている「仕事と生活の調和」について、女子大生のみなさんが結婚・出産・育児を迎えるころには、世の中が少しでもその実現に向けて前進していることを願っています。

編集委員

